

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 こじか福祉会
施設名	あめく結保育園
報告者（役職）	中野美奈子（主任保育士）
住所・連絡先	沖縄県那覇市天久 2 - 2 6 - 2 2
	☎ 098-917-2387
	E-mail amekuyui@gmail.com

○タイトル（保育計画）

身体を思いっきり動かすって、楽しいね

○主な助成備品

・巧技台セット・跳び箱・マット・アップダウンセット・バランス平均台等

1. 保育計画策定の目的

開園して間もない本園ですが、日々成長していく子供たちの為に、様々な体験や活動を通し、色々な事象に興味や関心を持って取り組めるよう心掛けています。しかしながら、最近の子ども達の様子はと言うと、朝からぼんやりしたり、「つかれた」という子ども達の姿が時々目に付くことがあります。

乳幼児期のこの時期に健康な心と体の発達を育むために、日々の生活の中で体力作りが出来るような環境を整えていきたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

●システムブロックアップダウンセット

バランス感覚がとれる 手足を使って上り下りすることで、全身の力を使う

●はしご・鉄棒・平均台

手指や手足の強化 握る 体を移動させて全身のバランスを養う

●マット

転がる（前・横まわり）での回転感覚・バランス・壁登り等全身機能を高める

●巧技台・跳び箱

腕でからだを支える感覚を身につける 跳躍や瞬発力を高めたり、高さ感覚やタイミング能力を養う

3. その成果と評価

A) システムブロックアップダウンセット（0・1歳児）

- ・ 手足を使い、階段や斜面を降りる時に、保育士の援助で方向転換して降りられるようになった。
- ・ 低反発素材が気持ちいいのか、斜面や階段の途中で寝そべる姿も見られたが、慣れてくると保育士の手を借りず自ら目標を定め、上ったり滑ったりを楽しむ姿が見られた。
- ・ まだ歩行が安定していない0、1歳児も目の前にある目標へ向かって直線的に進むだけではなく、目の前の障害物を乗り越えたり、回り道をしたりと方向転換をして目標へ近づこうとする姿が見られた。
- ・ 柔らかい素材の階段や斜面を立てて上り下りをする事で、片足、片足を踏みしめて歩き、安全性が確保されたなかで、よじ登る・滑る・乗り越える…等、自然と身体の中でバランスを取るようになった。
- ・ 波を打った形や様々な形を組み合わせ配置することで、発達に沿った設置環境を整え、歩行の確立につなげていった。



B) 鉄棒・平均台（全園児）

- ・ 低年齢児用のバランス平均台（ソフトタイプ）や高さを変えての平均台などで保育士の手で掴まり安心して活動が出来ることから始めた。保育士が体幹の軸を支える事で少しずつ手を放し、横歩き・足を交互に出して歩く・両手を広げて歩くなどと段階を経て挑戦することで、バランス感覚を身につけていくことにつなげていった。
- ・ 鉄棒では、ぶら下がることで、遊びの中で筋力やバランス感覚を身につけていった。継続していくことで腕力がつき、年齢が上がるに伴い自分の身体を支えられるようになったり、前回りができるようになる事が期待される。



C) マット (全園児)

- ・ ハイハイでの移動時にマットを敷く事で滑ることなく足指でしっかりと蹴って進む事が出来た。
- ・ マットの幅から落ちないように転がる方向に目標をもち、前転や側転など360度頭部が回転する感覚は、日頃できない体験であり、全身運動・バランス感覚運動としても取り入れていった。



D) ハシゴ・跳び箱・巧技台セット (1歳児以上)

- ・ ハシゴは恐怖心をなくすために直置きにして高さをなくし、ハシゴの間を四つん這いで歩く事から始め、巧技台と組み合わせる事で徐々に高低差を出したり、斜めに設置することで、上りやすさ取り組みやすさを考えて行った。それにより段階を追って達成していくことで、恐怖心よりも達成感を味わい、積極的に活動に参加できるようになった。
- ・ 巧技台や跳び箱の高さを調整し手指・足指や、全身を使ってよじ登る事で達成感や自信、満足等から、意欲的に取り組む様子が見られるようになった。
- ・ 低年齢児では低い段にマットをかぶせ斜面をつくり、高さを変化させることでハイハイでのぼったり斜面を滑ったりして楽しみながら全身運動を取り入れる事が出来た。
- ・ 3、4歳児での跳び箱では、助走をつけずにその場でかえるのように飛び乗る遊びを繰り返すことで、恐怖心が減り跳べる子が増えてきた。
- ・ 巧技台や跳び箱の上からマットの上に目的を持って跳ぶことで、片足から両足ジャンプや目印をつけた位置へのジャンプへと発展したあそびを楽しむことができた。



4. 今後の課題と展望

現在挑戦する活動は、今現在の力だけではなく、これまでにどんな体験をしてきたかが、今後の活動の可能性をより広げ、自信を持って取り組むことができます。日常の活動(遊び)の中で身体を動かし、色々な事に興味を持ち積極的に取り組み成功・失敗体験を繰り返すことで、健康な心とからだの発達につなげていけるのではないかと思います。

今、目の前にいる子どもの姿だけを考えるのではなく、入園してから卒園までを見

通した、一貫とした計画を持ち、今後も子ども達に向き合っていきたいと思えます。

以上